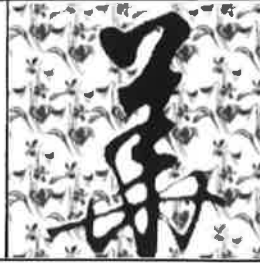


発行者  
公益社団法人 関西吟詩文化協会

# 公認 華洲会 (広報紙)

発行責任者 会長 山口華雋  
編集責任者 広報部長 山下心鼓



「華」第71号 発行:平成31年2月12日

主な記事

1. 会長 所感 新春錬成会
- 2.3. 競吟各部優勝者コメント
- 4.5. 新企画「会員の広場」
- 6.7. 新企画「青年部のページ」
8. 昇段・昇格、新入会員、漢詩

## 公益社団法人 関西吟詩文化協会 公認 華洲会 平成31年 スタートです

### 山口華雋会長 年頭の「ご挨拶」



あけましておめでとう  
ございます

本年度の干支は、イノシシです。猪は猪突猛進で偏屈のよう言われますが、本当は周囲人の心を思いやる心優しい性格の人と聴きます。わたくしも、この猪のような心で、皆さんと一緒に詩吟を楽しみたいと思っております。やはり詩吟は楽しくなければなりません、今年もお互いが思いやり、皆でたのしい教室にいたしましょう。

華洲会は他の会の方々から、勢いのある素晴らしい会というお言葉を賜っており、私も誇りに思っております。いつの間にか関西吟詩では二番目の会になりました。コンクールの成績もいいですが、錬成会や大会におけるみなさんの活き活きとした行動を見ると、大変喜びと勢いを感じています。高齢化・会員減少が嘆かれておりますが、嘆いてもこの波を容

易に止めることはできません。

しかし、華洲会は今年の期末には、一人でもよろしいから、会員が減少していかない会に成りたいのです。これは、各教室がひとりでも減少しないように頑張ってくださいという事です。容易ではありませんがお互いが力を合わせれば必ず叶うものと信じます。

先ず健康で力を合せ、楽しい教室を作り、会員が一人でも増える教室づくりをめざしましょう。

### 平成31年 新春錬成吟詠大会

1月14日 恒例の錬成会を大東市キリエホールで実施。

大会運営は受付・

司会・音響等青年部員が中心に行うようになつて3年目となり、スムーズな運営で大いに力を発揮しました。

大会のハイライト部分を写真で紹介いたします。



〈掲載及び掲載以外の出場者の写真データご希望の方は zulkono1@eto.eonet.ne.jp 迄〉

### 第47回競吟大会開催

### 吟詠に和歌に年間の錬成成果を披露

第47回競吟大会は平成30年10月8日大東市立市民会館2階キラリエホール・4階大会議場で開催した。当日は快晴で平成最後の競吟大会をあと押しした。

山口華衛会長は挨拶で「このまま何も対策を打たなければ吟界は十分の一になる」と吟界の危機を切々と訴えた。  
〈挨拶要旨は以下に〉

愛連等の競吟会で感じることは従来の力強い吟法に加え、心地よいリズム感の感じられる吟が高評価を得ている。リズムの重要さが更に増している。先の関西吟詩文化協会85周年記念大会において若手青年部が口ツク吟詠を披露してくれた。吟界を盛り上げるには若者に詩吟の魅力を感じてもらわないとだめだ。そのためには和楽器洋楽器を問わずリズム感溢れた吟を耳にする機会を増やす取り組みは有効だ。

もう一つは、暇を持って余している定年退職者向けの会員増員の方策が枚方の樟葉地区で検討されている。樟葉地区に教室を持つ華洲会以外の他流派と協力し、詩



効ではないでしょうか。  
第47回華洲会競吟大会

#### 各部優勝者のコメント

各部の優勝者の「一様に素直な喜びと、次なるステージへのステップアップの気持ち溢れるコメント」を紹介いたします。

新人の部

#### 上林 美敬(四條楠公)



賞を頂きまして、誠に有り難う御座いました。

私は四條畷の四條楠公支部で練習させて頂いています。私は覚えが悪く先生に何度教えて頂いても修正が出来ません。頭がパニックになり固まってしまう、そんな私ですが、先生からは何度も、何度も教えて頂きます。先生や先輩方にもご迷惑を掛けていますが、皆様から暖かく見守って頂き感謝しています。これからも練習に励みたいと思っています。

きつかけは声の小ささ  
一部初級の部

#### 今井 紀子(青山)



詩吟を始め、めたのは、人前で話すことが苦手で、声が小さいコンプレックスを克服するためです。

吟歴は大学に入った去年の6月からで、優勝をいただけるとは思っていなかったの、素直に嬉しいです。試験前と大会前は、いつもより練習しています。日頃は月二回友達と教室に行っています。広い公民館を使っているの、舞台と同じようにマイクと演台を使って本番をシユミレーションしながら吟じています。何よりの楽しみは合間の休憩に食べるサーモン巻きです。

目標は少壮吟士を夢む  
一部上級の部

#### 川田 麻衣子(篤詠寺川)



ほんとうに嬉しいです。昨秋以後、12月3月までは来

聞く人に感動を頼む  
二部 初級の部

#### 清藤 禮次郎(篤詠寺川高知)



この度、過分な榮譽を頂き、嬉しく思います。これも、先生方のご指導有ればこそ、感謝申し上げます。

年に向けてと、日々練習してきました。発声は毎日声を出せる所で、山の所や喉がガラガラするときは段差が。上手いかない時が殆どですが、やらないより良いと思いつけています。まだ声を出すのが精一杯で、詩情表現までいかないです。これからは色々な方の吟を聞き、読みやら表現の仕方など身につけたいと思っています。目標は少壮吟士なので、なれるかどうか

かよりそれに向けて日々練習です。

又一步前進出来ればと

二部上級の部・和歌一般の部

坂根 英生(川西大和)



この度はこの様な賞を頂き大変嬉しく思うと共に一層精進しなければと身の引き締まる思いです。

早いもので詩吟を始めて4年半先生の熱血指導のもと、詩吟への情熱も高まってき

た。最近になって、以前に教えて頂いた意味が『あれはこう言う意味だったのか』と、少しずつ分かるようになって来ました。勿論理解出来た事と、実際に吟ずる事との間には、大きなギャップがあります。これを一つ一つ埋める事が出来る様に日々努力を続けていきたいと心を新たにしています。

次のステップに進む励み師範代の部

奥山 久美子(雫詠寺川)

今年師範代の部で出吟させて頂き、まさかの優勝に家族も驚いています。家族でカラオケに行くと、主人と息子に微



妙に音がズレているといつも指摘されます。家で家事をし

ながら詩吟をしていてもありがたい指導が入ります。最近嬉しいことに主人から奥山先生の声と間違われた事があります。主人いわく、詩吟は「おからの下手くそ、バージョンだな」とからかわれますが、いつか先生のような詩吟ができるように練習を大切に、一歩一歩進んでいけたらと思います。思うようにできませんが、この様な賞をいただけただけ事を本当に嬉しく思い、次のステップに進む励みにもなります。ありがとうございます。

もっと競吟会にチャレンジ準師範の部

片山 節子(多田東)



この度は優勝というチャンスを与えて頂き

有難うございます。

熱心で厳しく、弱音を吐く

など常々指導下さる先生に先ず感謝申し上げます。

私の「健康道場」の一つである詩吟には色々な楽しみが

あります。吟ずる事で心も身体も健康になり、歴史を学び教養も身につきます。競吟にチャレンジすれば「褒美ヨ。皆さんも沢山チャレンジして吟界が盛り上りましょう。

これからも「華洲会の輪と部の和」をモットーに和を広げ、チャレンジして生きたいと思えます。今年私の干支である戌年であり、ワンダフルな年になりました。

生徒さんと共に稽古を師範以上の部

藤原 忠尚(京阪樟葉)



詩吟を始めました。めたきっかけは、今から十九年前仕事帰りの

電車の中に「詩吟教室会員募集」の広告が目にとまり、駅ビルにある「詩吟濱田教室」に行き「体験」させて頂きました。濱田先生の素晴らしい吟詠に触れ、即入会しました。

吟歴ですが、若い頃(二十歳代半ば頃)会社の先輩より

「詩吟教室を作るから弟子に成れ」と言われ、先輩と共に

会社の近くの商店街にて開講された教室にて稽古を開始、先輩より詩吟の手ほどきを受けました。三年位稽古を続け

ました。暫く稽古中断していましたが、

今回の優勝の感想は、私の実力以上の結果と感じています。諸先生方のご指導のおかげと感謝しています。ありがとうございます。

日常の練習は現在「京阪樟葉支部五教室」と市内にて開講の「同好会三教室(非会員の方々十七名)」の教室における指導時の吟詠指導実演等が、稽古です。また最近、特に注力している事は、「詩心」を伝えるには如何にすれば良いか？を自問自答しながら稽古しています。教室では、「教える」「より「勉強させてもらう」の考えで生徒さんと共に稽古しています。最後に成りましたが「華洲未来塾」ではとてもいい勉強をさせてもらっていると感じています。

詩吟好きの仲間が一人でも増える事に尽力して行きます。ありがとうございます。

漢詩とは違った表現を和歌 指導者の部

嶋崎 樹里(野崎観音)

和歌は、短いけれど難しい。と感じています。短い中に情景だとか、感情が込められている。それをどう表現す



るか？と思いつつも実際は、音程をなぞるのが精いっぱい。今回「和歌・四万十に」では、見た事のある水のキラキラを思い浮かべて、出来るだけ明るく、強すぎないように。ただそれだけでした。

漢詩とは違った表現を、これからは楽しく追及できるように頑張ります。ありがとうございます。

第47回 華洲会 競吟大会 (平成30年10月8日)

出吟区分	氏名	所属支部	優勝	氏名	所属支部	準優勝	氏名	所属支部	準々優勝	氏名	所属支部
新人の部	上林美歌	四条橋公	奥屋益夷	雫詠伊賀	梶尾君子	ソレイユ	初級の部(一部)	今井紀子	曾山	松下恵子	多田東
初級の部(一部)	清藤禮次郎	雫詠寺川高知	奥野君子	多田東	東野昭	川西豊友	初級の部(二部)	川田麻衣子	雫詠寺川	福田和美	川西大和
上級の部(一部)	坂根英生	川西大和	小笠原邦彦	雫詠寺川	谷和代	多田東	上級の部(二部)	奥山久美子	雫詠寺川	小川宗三	雫詠寺川
師範代の部	片山節子	多田東	江崎一吉	四条橋公	大西正厚	雫詠寺川	準師範の部	藤原忠尚	京阪樟葉	岸場さち子	鳳吟大江
師範以上の部	藤原忠尚	京阪樟葉	宇野麗子	勢多	江崎一吉	四条橋公	決勝の部	藤原忠尚	京阪樟葉	宇野麗子	勢多
和歌(一般)の部	坂根英生	川西大和	島田綾子	雫詠寺川	清藤禮次郎	雫詠寺川	和歌(指導者)の部	嶋崎樹里	野崎観音	今井美津子	曾山
奨励賞(30年度)	里幸二	清和台	85歳以上で、元気な吟詠								
奨励賞(30年度)	嶋崎千夏	野崎観音	幼年で、明るく元気に吟詠								

**新企画 【会員の広場】**  
**支部自慢 私の楽しみ等、綴ってもらいました**  
 (掲載は投稿整理順)

「間」の効用

京阪樟葉支部 木村 士郎

詩吟は「間」の芸術常に先  
 生から言われています。「間」  
 を巧みに操るには、詩を理解  
 し、作者の息遣いを感じ取る  
 力をマスターしなければなり  
 ません。この事はなにも詩吟  
 の世界だけではありません。  
 私達が人生を歩む過程でも大  
 いに役立つと思います。自己  
 中心で周りを顧みる余裕を持  
 てず迷惑を掛けていることは  
 ないのか、反省の毎日です。  
 一向に進歩の跡形もない私の  
 吟、でも意外な処で役立って  
 いるんだと感謝です。

私の健康法

ソレイユ支部 井元 信雄

これは自分を律するため  
 敢えて取り上げたテーマです。  
 私は四十代初め腰部椎間板へ  
 ルニアで手術をした。完治し  
 てから三十余年経った四年前  
 他の部位で再発。私の不健康  
 な生活習慣が原因と深く後悔  
 腰痛のため詩吟の発声が思う  
 ように出来なくなり、一旦退  
 会を余儀なくされた。手術を  
 避け、通院治療で今は何とか  
 薬に頼らない生活が出来る所  
 まで回復。これを機会に又ソ  
 レイユ支部坂本教室にお世話  
 になるようになり、声を出す  
 ことの喜びをかみしめています。  
 残された人生、これまで

故郷自慢

燐吟支部 山脇 浩二

私の故郷は鹿児島県南九州  
 市願娃町(えいちょう)です。  
 薩摩半島の南部に位置してい  
 ます。南九州市は平成19年  
 12月1日に、旧指宿郡願娃  
 町と川辺郡知覧町及び川辺町  
 が合併して出来た人口約三万  
 八千人の市です。お茶の栽培  
 面積及び生産量共に日本一で  
 知覧茶・願娃茶として市場に

の反省の上立って日々健康  
 維持に努め詩吟を楽しみたい  
 と思っています。

私の楽しみ

ソレイユ支部 中村久美子

入会の切っ掛けは、大きな  
 声を出すことは健康にいいな  
 どの触れ込みに誘われる場合  
 も、私自身知らないうちに入  
 会手続きが済んで会員になっ  
 ておりました。詩吟が良く分  
 からないのにです。今頃はど  
 うしたことか頭の中で詩吟を  
 繰り返して、繰り返して吟じて  
 いることがあります。いつか従  
 姉妹と一緒に舞台上立って連  
 吟をやりたいと燃えています。

支部自慢

雋詠京都高谷分会

竹村 のり子

皆様初めまして。我が教室  
 の自慢、それは何と言っても  
 高谷先生の生徒にかけて下さ  
 る愛情と熱意、そして先生の  
 詩吟愛です。私は六十を超え  
 て初めて詩吟教室に。今や先  
 生を始め教室の皆様が、私に  
 とっては大事な人生の見習う  
 べき大先輩です。お稽古の合  
 間のコーヒータイムも捨てが  
 たく、教えて頂く事ばかりで  
 す。そんな私の詩吟の出来は  
 今一つ。先生には気を揉ませ

てばかりであります。教室の  
 雰囲気が良いすぎて、吟の上達  
 を願う大きな覚悟が無いのが  
 私の欠点です。いつか華洲会  
 競吟入賞、これを目指したい  
 です。

私の健康法

川西大和支部 福田 和美

取り立てて健康法などとい  
 うものはありませんが、強い  
 て言うなれば、丈夫な身体  
 礎を作ってくれた両親への感  
 謝と規則正しい生活をし、好  
 き嫌いな何でも食べよく眠  
 ることでしょうか。そして日  
 常生活の口では些細な事に拘  
 泥せずアハハと笑い飛ばして  
 能天気にならぬこと。「所詮この  
 世は仮の宿、起きて半畳寝て  
 一畳天下とつても二合半」私  
 達夫婦の合言葉です。今後も  
 この精神で贅沢もせず、適度  
 の身体を動かし暮らしていけ  
 たらと思えます。

私の健康法

川西北支部 鮫島 秀一

私の健康法は詩吟、書道、  
 木版画、楽器サックスの四つ  
 の趣味です。  
 教室では習得そつちのけで  
 先生、先輩、仲間と世間話、  
 冗談話に花を咲かせています。  
 時には食事、酒を酌み交わす  
 ことで気の充実を図っており  
 ます。当然、それぞれの教室  
 で課題を頂くわけで、四つと  
 もなりませんと日々時間に追わ  
 れ、一ヶ月があつと言う間に  
 過ぎます。「朝起きて、今日は  
 何をしよう」とは、無縁です。  
 私は煙草をやりますし。寝食

詩吟との出会いは人との出会い

丸の内中央支部 中西 彰

退職後「終の棲家」を求め  
 て川西に転居し現在の住居地  
 に居を構えて13年目となつ  
 た。川西市民となつてからは。  
 過去の縁はともかく、新しい  
 人間関係の構築「人との出会  
 い」の始まり。地元自治会に

入会、向こう三軒両隣とのお  
 付き合い、地元ゴルフ同好会  
 に参加等している折、出身大  
 学の立ち上げ構想があり、設  
 立発起人に名前を連ねた縁で、  
 同窓会初代会長となる「竹本  
 勇」氏と知己を得た。  
 この「竹本 勇」氏に誘わ  
 れたのが詩吟とのなれそめと  
 なる。詩吟を吟ずることは難  
 しいが、詩吟を聞き、詩の心  
 に思いをはせ鑑賞に浸るのは  
 楽しい。「好きこそ物の上手な  
 れ」と人は言う、詩吟は好き  
 から上手なりに吟じていき  
 たい。ライフワークとして

は大変不規則で体の健康には真逆のことをしていますが、ここは「病は氣から」を信じて、日々趣味を通じて氣の充実を図りたいと思います。

子供と一緒に

清和台支部 森 蘭豊

吾が支部は総勢20名で実に多岐に渡っています。大人11名、子供は川西市少年セクターと関吟と両方に所属して6名、その卒業生の中学生1名、高校生2名(高校生は今県外の学校に行っていますが本人達の希望で籍は残しています)

今一番活躍しているのは小学生、中学生の7人です。川西市の行事、兵庫県からの依頼、池田市からの依頼と大忙しです。今年初めて小学生、中学生二人を吟剣に挑戦させました処、二人とも近畿に残ってくれ、八月五日の決勝に又挑戦することに成りました。他の子供達にとつても嬉しい限りです。これからも子供も大人も共に成長していければと思っております。

詩吟に感謝

川西豊友支部 田邊 義彦

私が詩吟を始めたきっかけは10年前政安先生に勧めら

れたからです。当初は難しそうで躊躇していましたが背中を押されて始めました。結果今では感謝しています。結婚式では「結婚を賀す」お祝い席では「富士山」酒席では「川中島」など吟じております。

自分は今なかなか上達しません。知人友人に声がけし始められた数人の方々は先生の熱心なご指導を受け日増しに上達しておられます。真から嬉しく感謝しております。詩吟は覚え難く忘れ難いものです。自覚しました。若い頃「心身統一合気道」を二十数年重ねて参りましたが声は出しません。詩吟と相通ずるところも

あります。やはり大きな声を出す詩吟が健康法として一番と心得ます。華洲会会長山口華雋様には入会当初より何かとご指導ご鞭撻賜りましたこと深く感謝申しあげます。

私の楽しみ「挑戦」  
雋詩寺川支部高槻教室  
上條 英治

私は、五月から園部奎雋先生にご指導頂いております。高校の時から「新唐詩選」「万葉秀歌」などで、詩歌に親しんでおりましたが、現役時は技術者として仕事一本、趣味

も忘れて挑戦、挫折と成功も味わいました。現役を外れ、綺麗な大声で朗詠を楽しみたく詩吟に挑戦、先輩のレッスンにも耳を傾け、時間をフルに利用させて頂いております。園部先生は、ま

ず褒めそれから気さくにユーモアを交え指導して下さい。で、レッスンを楽しみます。詩文を明瞭に読み、節回しは母音にする吟詠に共感、この縁を大切に、挑戦を楽しんでゆきたいと思っております。

親思う  
野崎観音支部 西田 恵美

クルクル回る盆提灯を見ているとこの春九四歳で他界した父を思い胸が一杯になる。九州男児を地で行く父だった。最後は赤子の様に穏やかに旅立った。亡くなって改めて父の大きさに守られていた事に気が付いた。母が亡くなり意気消沈した父がいたから乗り越える事が出来た。

今は一人呆然としている自分だけ、駄目だ何とか気持ち奮い立たせようともがく。詩吟で大きな声で出してみても、吉田松陰の親思うは私情を持つと言も吟じられず、ただ無心に徹して声を出す。詩中の景、詩中の情に同化で

きるのはまだまだ道は遠い。私の健康法  
四条楠公支部 上林 美敬

朝は五時半起床、約一時間の代腰痛体操後愛犬の散歩、朝食、そして出社します。六十八歳になりそれなりに病気は出てきましたが、お陰様で元気に暮らしています。詩吟に入会してまだ一年半、私には家内より音感が悪いと言われているのですが、先生には熱心に繰り返しご指導を頂いており、先輩からも暖かい助言を頂き有り難く感謝しています。

私の趣味は他に写真撮影ですが、何年か先には、趣味は詩吟一つになっているのではと最近思うようになってきました。詩吟も体操も「継続は力なり」

忘れられない一言  
多田東支部 宮里 叡義

人に愛を以て尽くせ、と言う言葉です。小学校卒業後は中学校までは同じでしたがその後の消息は不明です。きつと今ではどこかで子供や孫達に囲まれて幸福に暮らしていることでしょうか。六十年経った今でもYさんの言葉が脳裏を離れません。これからもYさんの言葉通り、天氣の良い日も悪い日も、天を仰いで星を見、地に花を見て、人に愛を以て世界の平和と一切衆生の幸福を願って尽くして参ります。

教本に学ぶ  
瀬田支部 宇野 麗子

生活をしていく中、又、吟界の中で、とんでもない事が起こった時、私は教本A1、A9の詩文を声に出して、何度も読みます。読んでいる内に心が落ち着き、全てが浄化されていきます。これは寺田先生(姉)がいつもしている方法で、心が大きく、美しくなる気がします。詩吟を学ぶ価値はここにあります。今以上に心の琴線にふれ、美しい旋律、詩、和歌に接し、目を肥やし、心を耕し、感性をみがきたいです。詩吟の神様に恥じないよう

# Casa Blanca

## ☆青年部のページ

### 華洲会青年部の素顔その1

- ① 氏名(よみ/雅号)
- ② 所属支部/師匠
- ③ 吟歴
- ④ 好きな吟題(または、今習っている吟題)
- ⑤ 一言ご挨拶

- ① 今井 美津子(いまい・みつこ/彩黎)
- ② 九月二十七日青山支部設立/岡島彩鼓先生
- ③ 十六年
- ④ 古稀偶感「其の一」(宮崎東明先生)
- ⑤ 「詩吟は楽しい」を motto に! ご指導くださる先生・先輩方、家族、支えてくれる仲間、若い仲間達に感謝をし、前向きに取り組んで行きたい! と思います。宜しくお願いします。



- ① 川田 麻衣子(かわだ・まいこ/紅祥)
- ② 雋詠寺川高知支部/

- ① 上野 敦(うえの・あつし)
- ② 川西豊友支部/政安恵豊先生
- ③ 四年半
- ④ 好きな吟題は、「山中の月」(眞山民)
- ⑤ 春は桜鱒、夏は鮎、秋



- ③ 末延祥雋先生
- ④ 五年目
- ⑤ 今練習しているのは「春夜洛城に笛を聞く」(李白)です。
- ④ 末延先生と奥山紅雋先生、時々山口華雋先生にも指導頂いています。
- ⑤ あと、高知での活動は舞(林 霊山先生)のお稽古もしています。プラス、お琴(奥山先生)にも教えて頂いています。幅広くしすぎて何も秀でた物が有りませんが、四国高知から関吟青年部のお力になればと思います。宜しくお願いします。



- ① 奥山 久美子(おくやま・くみこ/紅雅)
- ② 雋詠寺川支部/奥山紅雋先生
- ③ 八年(途中、育児休暇)
- ④ 「春夜洛城に笛を聞く」(李白)
- ⑤ 継続は力なり、小学生の頃恩師から励まされた言葉です。飽きっぽい性格ですが、詩吟はコツコツ頑張ろうと思っています。



冬は平政をメインにいろんな魚を求めて年中釣りをしています。詩吟をこよなく愛し、夢は大きく吟士権者です。叶わなくてもいいんです。目標は高い方が長く楽しめると思っています。



- ① 瓦林 翔太(かわらばやし・しょうた/紅翔)
- ② 雋詠寺川支部/奥山紅雋先生
- ③ 四年
- ④ 寄家兄言志(廣瀬武夫)
- ⑤ 鍛錬は千日の行、勝負は一瞬の行。



- ① 秋月 俊也(あきつき・としや/奎翁)
- ② 雋詠寺川高槻支部/園部奎雋先生
- ③ 三年半ほど。
- ④ 「酒に対す」(白居易)のような達観した境地に憧れている。
- ⑤ 不思議な縁によつて十数年ぶりに再開した詩吟。「詩中の人」となれるよう細く長く続けられればと思う。



教室では声を出す事の  
気持ち良さ感じつつお  
腹から声を出すことの  
難しさも感じながら勉  
強させてもらっています。  
長い趣味として続  
けられるようやってい  
きたいと思っていますし  
くお願いします。

- ① 加納 恵介 (かのう けいすけ)
- ② 雋詠寺川高槻支部/園部奎雋先生
- ③ 六カ月
- ④ 九月十日 (菅原道真)
- ⑤ もともとは母親から元職場の先輩が詩吟を教えられていと聞いて詩吟教室の事を知りました。詩吟についてほとんど知識がなく腹から声を出せるようになって自分を覚えてみないなと思ったのが教室へ行くきっかけでした。

「華洲会青年部の素顔」は次号も掲載予定です。お楽しみに!!!

平成三十年、華洲会青年部はこんな活動に参加してきました!

- ・ 総本部青年部大会 (大阪市、三月二十五日・日)
- ・ しまもと音楽フェスティバル (三島郡島本町、四月二十二日・日)
- ・ 音楽の祭典 (高槻市、六月十七日・日)
- ・ 総本部八五周年記念大会 (尼崎市、十月二十一日・日)

今回は、しまもと音楽フェスティバルと総本部八五周年記念大会をレポートします。

**島本音楽フェスティバル**

少し前になりますが、今年の四月二十二日(日)、青年部の活動の一環として、しまもと音楽フェスティバルに参加しましたので、ご報告いたします。

しまもと音楽フェスティバルは、島本町商工会青年部の主催で五回目を迎え、今年も多くの人々が来場し

大変な賑わいをみせました。このしまもと音楽フェスティバルに、我が華洲会青年部は関吟本部青年部と連携し、嶋崎さんと娘の千夏ちゃん、私上野が参加してまいりました。

当日のプログラムは、まず始めに嶋崎さんが鉄腕アトムのアメソングを詩吟調に歌い、続いて私上野が「舟中子規を聞く」、翠川会から参加のお二人が「名檜日本号」、最後に全員で地元にならんで「櫻井訣別」を合吟という流れで歌いました。

観客は四十〜五十名くらいでしたが、歌い終える度に大きな拍手をいただくこ



とができました。

一般の方々の中には、生まれて一度も詩吟を聞いたことがないという人がたくさんいらつしやいます。

一人でも多くの方に詩吟を知ってもらい、また詩吟仲間が増えることを願って、これからもこのような活動に参加したいと思えます。

(上野 敦記)

**総本部八五周年記念大会**

平成三十年に、創立八五周年を迎えた関西吟詩。青年部も、総本部を中心に出演が決まったが、今回の演目はひと味もふた味も違う。吉田松陰の残した「誠は天



の道なり」という詩を、ロックのメロディーに乗せて歌うというものだった!

青年部はじめ、指導の先生方も練習に四苦八苦、一時はどうなることかと不安満載だったけれど、本番が近づくとつれ、舞台での動きをどう工夫するか、知恵がどんどん湧き出てくる!そして当日、ゲストの上阪夫妻のギター・キーボードとともに緊張や不安を吹き飛ばすパフォーマンスで観客を圧倒!新しい視点と演出で、関吟青年部の未来に光明が差した舞台となった。

(秋月 俊也記)

【お知らせ】  
ツイッターを開始しました!インターネットで、「華洲会」と検索すれば出てきます。更新をお楽しみに!



平成30年度 前期昇段者

初段

東山美恵(京阪樟葉)三井健司(同上)中西光男(同上)日高みさ子(野崎観音)中西彰(丸の内中央)田中計久(多田東)野瀬幸(同上)

二段

遠藤兵庫(多田東)廣瀬千鶴子(同上)

三段

前田初美(野崎観音)

四段

甲斐五郎(丸の内中央)中根達博(同上)

五段

岩崎淳子(丸の内中央)村田スミ子(京阪樟葉)中野宣子(ソレイユ)

六段

嶋崎樹里(野崎観音)金子恭子(多田東)

七段

才賀泰男(京阪樟葉)井元信雄(同上)

平成30年度 後期昇段者

初段

松下恵子(多田東)草留和美(同上)坂部美智子(川西大和)鈴木廣子(同上)筒井清次郎(同上)龍田敬三(燐吟)龍

二段

田伊勢子(同上)梶尾君子(ソレイユ)鈴木マリ子(同上)小林美津子(同上)上林美敬(四)

条楠公(入口寛都(雫詠寺川)中学2年)

二段

今井紀子(川西大和)今井豊治(同上)中西民夫(同上)荒川一聡(雫詠寺川)平野敏弘(京阪樟葉)

三段

西田恵美(野崎観音)今田芳美(雫詠伊賀)奥野君子(多田東)梅澤幹夫(同上)小川佐千代(同上)瓦林翔太(雫詠寺川)秋月俊也(同上)上野敦(川西豊)

四段

友(山内春好(川西大和)幸盛正(同上)岡本好見(雫詠寺川)箱田慎也(川西北)中学3年)

五段

奥山久美子(雫詠寺川)川田麻衣子(同上)小笠原邦彦(同上)西村恵子(同上)嶋田綾子(同上)長尾孝子(多田東)進矢英子(同上)中村久美子(ソレイユ)鎌田 徳(雫詠伊賀)神山増己(雫詠京都)小原康子(同上)竹村のり子(同上)飯田宏(川西大和)坂根英生(同上)河田剛(同上)

六段

中村勉(雫詠京都)森本初代(同上)浅沼美智子(同上)若林成和(燐吟)山脇浩二(同上)

七段

江崎一吉(四条楠公)横山美紀子(雫詠京都)

中尾綾子(雫詠京都)末延喜美子(雫詠寺川)

平成30年度 昇格者

師範 石元三枝子(鳳吟大江)辻總一郎(多田東)

準師範

才賀泰男(京阪樟葉)岡部幸子(多田東)仲元幹雄(同上)鈴木俊夫(雫詠伊賀)師範代

東野明(川西北)

小島進一郎(同上)橋本眞三(同上)桜井啓義(雫詠伊賀)富田英孝(多田東)

平成30年度 入会者

\*再入会 ※子供

4月 清水世津子(学園)小林玲子(多田東)建山きよ子(学園)徳村稔\*(京阪楠葉)小尾博子(京阪楠葉)大西正輝\*(雫詠寺川)加納恵介(雫詠寺川)上條栄治(雫詠寺川)

5月

6月 西川涼華(青山)

7月

8月 高岡樹里(丸の内中央)林 秀姫(燐吟)

【漢詩の広場】

祝新年 庚韻 春光万里對朝晴 歲改陽和人日迎 草舍呈新風雅會 佳晨淑景早鶯声 平成 己亥 元旦

新年を祝す 深町華燁 庚韻 春光 万里 朝晴に對す 歲改り 陽和やかに 人日を迎へ 草舎 新を呈して 風雅の會 佳晨 淑景 早鶯の聲

華70号 訂正とお詫び P5多田東支部、分会長を吟号山西尚慧、宮里叡義、富田叡英にP8首夏郊村の「芳屋」を「茅屋」に

關西吟詩花協會 創立六十五周年近畿地區大會書感

鷗鷺幾千欣色新 吟聲和韻尼崎津 五加八十襲流旆 更願百年共守眞 丸内里志 竹内里志

○尼崎津は港のこと。尼崎港は「大物」の津として栄えた。 徒手空拳の暫定部長として引継ぎ、今回の71号で漸く広報部が全員総力を挙げての取材・原稿起こし・パソコンでの刷版作りまで、全員四苦八苦で完成しました。 紙面はページ担当として全員で責任を以て終結するやり方で、清らかな紙面を目指した。 今後継続したいコーナーは「会員の広場」で、会員相互の情報を可能な限り頂き繋がり深めて行く事で、皆様が期待する紙面に。又、若い世代の斬新な思考を掲載する頁も継続し、「華」発行以外に外部向け情報発信もインターネット等を活用し青年部・企画部・事務局とも連携し進めて行きたい。 山下心鼓

【編集後記】